



平成29年度に実施された「愛媛と世界をつなぐ日本語教育」(共催:愛媛大学国際連携推進機構、(独)国際協力機構四国支部)は私にとってとても実りのある講座でした。私が最も影響を受けた講座は第2回『日本語教育－JICAボランティアへの道－』です。「世界の日本語教育」をテーマに、JICA日本語教育ボランティアの現状や求められる技術について学ぶというものでした。

ちょうど私は大学卒業後の進路について考えていた頃でしたが、愛媛大学国際連携推進機構の高橋先生から講座についてのお話をいただき、とにかく行ってみようという気持ちで参加しました。これまでJICAについて聞いたことはありましたが、なんとなくでしか知らず、あまり身近なものとして感じてはいませんでした。

講座では、JICAの職員の方や実際に青年海外協力隊として派遣されたことのあるOB・OGの方々からJICAの日本語教育ボランティアについて生のお話を聞くことができました。

例えば、海外で行う日本語教育と日本で行う日本語教育の違いについて考える時間がありました。海外では限られた環境や教材の中で、現地にあるものを最大限に活用しながら教える必要があることや、日本とは全く異なる文化の中で、考え方や価値観、ものの概念がどのように異なるかなどについても学ぶことができ、非常に興味深い内容でした。講座にはグループ活動が多く取り入れられており、グループのメンバーと話し合ったり、他のグループの意見を聞くこともできたり多様な考え方に触れることができました。また、参加していた高校生からシニアの方まで様々な人と交流ができたのも良かったです。

もともと海外で働くことに興味があった私は、青年海外協力隊としての活動に非常に魅力を感じました。私はアメリカに長期留学をした経験がありますが、留学中はある程度環境が整っており、常に周りに助けてもらう立場で、ただ受け身な生活を送っているだけでした。しかし、JICAで働く専門家の方の話や協力隊OB・OGの方々の体験談を見聞きするうちに、青年海外協力隊としての活動は、私が海外でどれだけ課題に挑み、解決していけるか、どうやって世界の人々の力になることができるか、ということに挑戦する絶好のチャンスであると考えようになりました。同時に、現地での厳しい環境や苦労体験も知ることで、新卒で社会経験もない私が協力隊員として実際にやっていけるのか、という不安も抱くようになりました。

そんな中、講座で司会を務めていらしゃったJICA愛媛デスクの今井さんとお話しをさせていただく機会を持つことができました。今井さんも新卒でJICAの青年海外協力隊に合格した方で、相談にのっていただく中で徐々に不安が解消され、自信を持つことができました。講座を通して、いろいろな方から貴重なお話しをたくさん聞くことができ、良い刺激をたくさん受けることができたのは、とても有意義な時間でした。講座に参加して本当に良かったと思います。

そして何より今回、講座に参加して最も良かった点は、私の大学卒業後の進路につながったことです。私はこの度、おかげさまで JICA に合格を頂き青年海外協力隊員として南米のアルゼンチンに派遣されることになりました。これは、この講座に参加したことがきっかけで得ることができたものです。もし、あの時講座に参加していなかったら、JICA の応募に踏み切ることはできなかったかもしれませんし、自信を持って選考に挑むことができず、合格に至ることはなかったかもしれません。高橋先生をはじめ、EPIC、そして JICA 関係者のたくさんの方々、このような素晴らしい機会を設けていただきありがとうございました。そしてこれからもこのような講座が引き続き開講され、多くの方々に良い刺激を与えていくことを期待しています。